

優秀賞

声をかけたことから……

山口県 日置中学校 二年

木下 楽人

今年、もうすぐ春が来るといふときのことでした。学校から帰り、用事があって友達の家に行く途中、地域にある老人ホームの前で、重そうな荷物を持ったおじいさんが座っていました。

「こんにちは。荷物持ちましょうか。」と、声をかけると、

「ありがとね。」と言われて、荷物を持ちました。

そして、おじいさんから荷物が重くて少し休んでいたこと、郵便局が閉まるまでに荷物を運びたいことなどを聞きました。僕は時計を持っていなかったの、時間に間に合うかどうか、わからなかったのですが、おじいさんの歩幅に合わせ、話をしながら郵便局まで行きました。

歩きながら、おじいさんはいろいろな話をしてくださいました。以前、スポーツ少年団で野球のコーチをされていたこと、「生きているといいことが必ずある」ことを教えてくださいました。そして、足が不自由だとも言っていたので、声をかけてよかったと思いました。

郵便局にたどり着いて、郵送したいということだったので、案内を見てみると午後5時が締切でした。時計は5時15分になっていたの、局員の人に声をかけました。すると、「いいよ」と優しく言ういただき、荷物を受け付けてもらうことができました。

おじいさんからも局員の方からもお礼を言われ、大げさかもしれないけど、任務を全うしたような気持ちで郵便局を出ました。おじいさんと過ごした時間は、30分くらいだったけれど、心温まる時間を過ごすことができ、前向きになる力をもらいました。

驚いたのは、次の日です。学校では、昨日のことが大騒ぎになっていました。「郵便局におじいさんの荷物を運んだ優しい男子生徒。名前も名乗らず帰っていったので、その生徒を探している」と。おじいさんと郵便局の方が、すてきな行動をしてくれた生徒さんだから報告したいと、学校に連絡してこられたのでした。

クラスに入ると、友達が「楽人君ですよ」「木下君です」と担任の先生に伝えているところでした。クラス中が、「すごいね」「いいことしたね」「なかなか声かけられんよ」などの言葉であふれていました。自分にとってはあたりまえというか、自然に行動しただけだったので、こんな騒ぎになっているとは思っていませんでした。

僕は照れてしまい、友達に返す言葉が「ありがと」しか見つからなかったけれど、心は温かい気持ちでしっかり充電されていました。

実は、以前にもほかのお年寄りに声をかけたことがありました。そのときは断られたのですが、今回、声をかけて、おじいさんと出会えて本当によかったと思っています。

おじいさんのおっしゃっていた「生きているといいことが必ずある」は、本当にそうでした。自分の行動でこんなにみんなが喜んでくれて、声をかけてみようという友達が増え、嬉しいことがつながっていったのです。僕はこれからも自然体でいきたいと思います。